ジオパークにおけるジオガイド活動の役割と課題
－佐渡ジオパークと鳥海山・飛島ジオパークを事例として－

上野　大地

日本ジオパークは 46 地域存在しており（2023 年 5 月現在），そのエリアに携わる人たちは様々な活動を行っている。その中でジオガイドはジオパークにはなくてはならない存在である。そこでジオガイドについて分析するために佐渡，鳥海山・飛島ジオパークの 2 つのジオパークに聞き取り調査を行い，活動内容ややりがい，課題などを比較しながらジオガイドの特徴を考察した。

佐渡ジオガイドでは 22 名（2022 年）在籍し，基本的には任意の活動ではあるが，島民向けジオツアーや教育旅行などの案内を行っている。ガイド育成に関しては養成講座が毎年行われ，2021 年は 16 名の応募があった。やりがいは佐渡の良さを理解してもらえた時，課題としてはガイド経験の個人差から起こる役割分担の難しさや各ガイドの連絡調整があった。

鳥海山・飛島ジオガイドは 75 名（2023 年現在）在籍し，3 つの柱（保護・保全，ジオツーリズム，教育・普及・防災）を基本とした活動を積極的に行っている。ガイド育成では養成講座が毎年行われ，2023 年は 23 名の応募があった。やりがいは地域の素晴らしさを来訪者と共有できた時，課題としてはガイド更新制度の必要性，後継者問題，ガイド依頼受け入れ体制の独立化が挙げられた。

ジオガイド団体全体の特徴として「来訪者への案内の活動だけではなく，エリア内の地域住民に対してもジオパークの良さを積極的に伝えている」，「毎年行われている養成講座により，新しいガイドが誕生しジオガイドの層がより強化されている」の 2 つが当てはまると考えた。そして，ガイド個人の特徴として「変化する自然現象に対し柔軟に対応し，さらに独自性のあるガイドを来訪者に提供するために日々勉強，精進している」という点を指摘した。